宮古島と石垣島の農業 ―環境変化への対応と発展動向―

取締役基礎研究部長　清水徹朗

筆者は2004年９月に「沖縄の農業―その変化と現状―」というレポートで沖縄農業の実態と課題を論じたが、昨年10月に久しぶりに沖縄（宮古島、石垣島）を訪問する機会を得た。この10年間で沖縄の農業がどう変化したのかを宮古島と石垣島を中心に見てみたい。

1　沖縄農業の10年間の変化

15年において沖縄県の農家戸数は20,056戸（10年前比△20.9％）、農地面積は38,600ha（同△1.8％）、農業生産額は935億円（同3.3％増）であり、農家戸数は全国と同様に減少を続けているが、農地面積の減少率は小さく、農業生産額は増加している。生産額の内訳は、肉用牛187億円（20.0％）、サトウキビ162億円（17.3％）、野菜122億円（13.0％）、豚120億円（12.8％）、花き107億円（11.4％）、果実57億円（6.1％）であり、近年、肉用牛やマンゴーが成長し、サトウキビも一時の低迷から脱し回復している。

また、沖縄県でも農業者の高齢化が進行しているが、サトウキビの機械収穫率はこの10年間で35.2％から67.0％まで上昇しており、近年、新規就農者数が増加するなど、沖縄の農業は変化に対応し着実に発展している。

2　宮古島と石垣島の概況

宮古島は那覇から290km、石垣島はさらに130kmの距離にあり、石垣島からは那覇より台湾（280km）のほうが近い。面積は宮古島159km^2、石垣島222km^{2}であり(注)、両島を合わせて沖縄本島（1,207km^2）の３割程度であるが、人口は宮古島市（伊良部島を含む）51千人、石垣市48千人であり、それぞれ沖縄県全体（143万人）の3.6％、3.3％である。

両島とも農業が盛んであり、農地面積は宮古島市10,800ha、石垣島市5,390haで、この２市で沖縄県全体の42％を占めており、また農業生産額は26％を占めている。宮古島と石垣島は美しい海を有する観光地であり多くの観光客が訪れるが、農業が島の経済を支えている。

3　宮古島の農業―沖縄最大のサトウキビ産地―

宮古島には山地がなく（最高標高115m）、島の面積の過半は農地であり、就業人口全体の４分の１が農業に従事している。農家戸数は5,094戸、経営耕地面積は8,038haであり、１戸当たり1.6haと比較的大きい（15年農業センサス）。ただし、平均世帯員数は2.3人で、副業的農家が販売農家の６割を占めており、高齢者のみの農家が多くある。

15年における宮古島市の農業生産額は146億円であり、10年前に比べて21.2％増加した。このうちサトウキビ（71億円）が最大であり、宮古島は沖縄県最大のサトウキビ生産地域である（県全体の４割を占める）。サトウキビの生産量は、害虫対策、株出しの増加、機械収穫率の上昇等により低迷から脱し増加に転じている。肉用牛はほとんどが繁殖経営であり、子牛価格の上昇により生産額（33億円）が増加した。野菜はゴーヤ、とうがん、カボチャが主であり生産額（14億円）は横ばいである。宮古島では近年マンゴーに力を入れており、生産量（14年760トン）は10年間で3.3倍になり、また葉タバコの作付面積（563ha）は県全体の６割

農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

を占めている。

宮古島には夏秋に台風が到来し雨量が多いが、琉球石灰岩から成る土壌「島尻マージ」は保水性に乏しいため、かつては干ばつに悩まされていた。そのため79年に地下ダム（地下にコンクリートの壁を作り地下水をため込む装置）を建設し、農業用水、生活用水を確保している。

4　石垣島の農業―肉用牛生産の発展―

石垣島の面積は宮古島より４割大きいが、山地があるため農地面積は宮古島の半分程度である。また、農家戸数（823戸）は宮古島の６分の１であり、農家１戸当たりの経営面積は3.2haと大きい。

15年の農業生産額は101億円であり、05年に比べて8.7％増加した。このうち肉用牛（59億円）が６割近くを占めており、石垣島の農地の４割が牧草地である。「石垣牛」のブランドを確立しているが、島内では繁殖経営が主であり、石垣牛の生産は需要に追いつかない状況であるという。サトウキビ生産も盛んであり、その栽培面積は農地の３割を占めるが、生産量は宮古島の４分の１程度である。また、石垣島ではパイナップル生産も盛んであり（87ha、沖縄県全体の３割）、石垣島の米（栽培面積426ha）は超早場米として知られている。

石垣島の土壌は酸性で肥沃度が低い「国頭マージ」であり、排水性が悪く（水が浸透しにくい）土壌流出を起こしやすいため、雨が降ると農地から赤土が海に流出しサンゴ礁劣化の要因になっていると指摘されている。そのため「赤土等流出防止条例」を制定して公共事業や農業生産等において対策がとられてきたが、赤土問題が完全に解決したわけではなく、さらなる対策が求められている。なお、石垣島には山地があるため河川が流れており、島内に５つのダムを作って農業用水、生活用水を確保している。

5　急増する観光客と農業との調和

宮古島や石垣島には美しい海があり、多くの日本人は沖縄をリゾート観光地と捉えている。しかし、そこでは多くの人々が生活しており、特に農業とその関連産業には多くの島民が従事し、農業は両島にとって最も重要な産業である。

16年に沖縄県を訪れた観光客は861万人で過去最高を更新しているが（10年間で53％増）、増加の最大の要因は外国人の急増である。観光客のうち外国人が208万人（うち台湾・中国・韓国が７割、クルーズ船72万人）であり、この10年で10倍に増加した。石垣島（118万人）、宮古島（51万人）の観光客も増加しており、今回両島を訪れて驚いたのは台湾、中国からのクルーズ船である。夏には約２千人を乗せたクルーズ船が毎朝到着し、観光客は買い物と観光をして夕方帰っていく。その対応でタクシー需要が増加するなど島の経済は活性化しており、「インバウンド需要」が如実に現れている。今後、これらの人々が島に宿泊する可能性があり、両島ではホテルの建設が進んでいる。

中国や台湾の人々にとっては、美しいサンゴ礁に囲まれた島に比較的低料金で行けることは魅力的であり、今後さらなる増加が見込まれている。サンゴ礁は貴重な観光資源であり、サンゴ礁の保全と農業生産をどう調和させていくかが課題になっており、今後、赤土対策の費用負担方法も含めた検討が必要であろう。

（しみず　てつろう）

（注）石垣島の西にある西表島は、面積（290km^2）は石垣島より大きいが、人口は２千人程度である。